

Eureka XI

六年制通信 No.17 令和5年9月8日(金)号

始業式話したこと

始業式には高校部の諸君がいなかったので、話したことを書いてみようと思います。大きく三点について話をしました。

一つ目。九月一日は防災の日。これは今からちょうど百年前に起こった関東大震災の日だから、防災を考えるのにふさわしいと考え制定されたものです。関東大震災は死者約10万5千名。そのうち火事による焼死が9万人とされています。大正時代ですからね、まだほとんどが木の家だったからでしょうか。今から28年前の阪神淡路大震災は生徒諸君も若い先生方も実体験はないわけですが、松阪もかなり揺れたのですよ。私はまだ夜も明けきらない頃の突然の地鳴りを今でも覚えています。死者7千名弱でした。高速道路がねじ曲がっている映像が連日流れていました。私の友人が震災のど真ん中に暮らしていて、当然ながら連絡が取れず、新聞の死亡欄にカタカナで同姓同名が出て、それでもどうしようもなかったのですが、結局生きていたとわかったのは震災からほぼ一年にもなろうかという頃でした。食器棚の中から真横に2メートルほど移動したのち落下したとか、テレビが寝ている自分の上を飛んだとか、そんな話を聞かされたあと、何はともあれ大切なのは水です、とにかく水ですと力説していました。そして今から12年前になりますか、ちょうど国公立の後期試験の日、東日本大震災がありました。私の生徒たちも後期試験を受けるために前日東京入りをしていて、試験はなくなるわ帰ってこれないわで大変でした。死者・行方不明者がおよそ2万2千。あれで私たちは地震も怖い津波の恐怖というのを目の当たりにしたわけです。初めの数時間は加工されていない映像が流れましたから、人が人形のように流れていく姿を観た人もいます。私も教師ですから、あの時指示を間違えて多くの児童を死なせてしまった先生たちのことを思うと何とも言えない気持ちになります。あの震災から自分の家、あるいは学校や職場が海拔どのくらいかという意識が私たちに芽生えました。全く、地震のない国もあるというのに困ったものです。

さて、いつ来るかわからない震災に備えるには、君たちの場合、一日の何時頃に大地震が発生したらこういう行動をとる、例えば登校中なら家へ引き返す、登校した後も徒歩や自転車で帰れるなら帰る、そういう自分の行動を保護者と確認しておくことです。保護者は君たちが今どうしているか、無事なのか、それが一番の関心事ですからね。お昼に発生して交通機関もストップしたら必ず学校で迎えを待っている、そう確信できるだけで保護者は安心します。ですから、こういう場合はこうすると決めておくことが防災の第一歩です。そして仮に学校に待機することになり、近隣の人たちが

避難して来たら、君たちはじっとしていないで自分のできることをしてほしい。学校のことをよく知っているのですから、避難してきた人たちのためにできることを見つけて役に立ってほしいと願います。探せばいくらでもやることは見つかるはずですよ。

二つ目。コロナが 5 類になってインフルエンザと同じ扱いになりました。これが学校にとってどういう意味なのかと言いますと、要するに一年中学級閉鎖の心配があるということなのです。コロナ前、毎冬必ずインフルエンザによる学級閉鎖をしました。今またコロナが流行ってきています。中学行事を含む翠巒祭の直前に学級閉鎖はしたくないので、当分は今までと同じく慎重に行動しましょう。

三つ目。甲子園で慶應高校が優勝し、高校球児イコール坊主頭という構図が崩壊しました。優勝後に監督さんがそのことに触れ、「多様性を考える一助になれば…」と言っていました。しかし、慶應野球部の子たちは皆同じような髪形をしていましたよね。多様性というならあの中に何人か坊主頭がいてほしかったですね。と言っても所詮は野球部員の髪型のことですから、何も今はやりの多様性などという言葉を使う必要はありません。この、多様性という言葉は簡単に使うと危険だと私は思います。多様性を単純に皆違っていいということだと解釈することも危険だと思います。定食屋さんで皆が違う定食を注文する、みんな違っていい、これは正解です。好きなものを注文すればいい。誰とも軋轢を生まないのですから。しかし何に対しても、それは君の意見だね、尊重するよ、でもこれが僕の考えだから尊重してね、では思考停止に陥るだけです。世の中にはどちらかに舵を切らなければならないという場面が存在します。決断しなければならないことがあり、それに賛否両論があるという、こんなことは普通にあります。しかし意見の多様性、皆が違った意見を持っていていいと考えるのなら、お互いの会話を失ってしまいます。結果決定権を持った人間の言いなりになるだけです。軋轢を恐れるあまり、思考停止に陥ってはいけません。意見の違う人との会話を避けてはいけません。多様性という言葉は気をつけて使わないと危険なのですよ。

今週のおすすめ

・ 沢木耕太郎 『貧乏だけど贅沢』 (文春文庫)

沢木さんの本は、以前『一瞬の夏』を紹介したように思います。カシアス内藤というボクサーの物語です。また、最近では『春に散る』という映画に原作者としても知られていますね、沢木さんは。これもボクサーの物語。映画の予告を観ましたが、横浜流星という役者は相当練習していますね。プロのライセンスを取ったらいいですから。

今回は旅をテーマにした対談集です。本屋さんで手に取ってみたら、私の好きな阿川弘之さんと高倉健さんが対談相手に入っていたので即購入。一番目の井上陽水も爆笑でしたが、まあ皆さん旅がお好きなことよ。私は出不精なのでこの方々の身軽さが理解できないのですが、面白い経験を聴くのは出不精でも楽しいですね。人間には二種類あるような気がします。インドと聞いて、行きたいと思う人と行きたくないと思う人、何か読んでいて、ふとそんな気がしてしまいました。

BGM は 緑黄色社会 の マジックアワー でした…。